

競 技 注 意 事 項

1. 本大会に適用する競技規則は、2015年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項により実施する。
2. 練習は指定された練習会場を使用する。その他審判員の指示に従うこと。

3. 競技者の招集について

- (1) 招集場所は本競技場第1ゲート側の外に設ける。
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、すべてその競技の開始時刻を基準とし、下記のとおりとする。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻	種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	25分前	15分前	棒 高 跳	70分前	60分前
フィールド競技	40分前	30分前			

(3) 招集方法

- ア. 競技者は、競技者招集所付近に掲示した出場競技者一覧表に競技者または代理人がチェックする（○で囲む）。なお、リレー競技はオーダーの提出をもってチェックとする。
- イ. 競技者は、出場種目の招集開始時刻までに招集所に集合する。プログラム記載の招集開始時刻より点呼を始め、招集完了時刻には各競技場所へ移動を開始する。
- ウ. 招集場所での点呼に不在だった競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
- エ. 他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨競技者係に申し出て出場を確認する。
- オ. 混成競技については、第1日目及び第2日目の最初の競技のみ全体の競技者招集所で点呼を受けるが、2日目からは混成競技招集所で混成競技係からチェックを受けることとする。混成競技招集所は、全体の競技者招集所横とする。それぞれの競技場所へは混成競技係が誘導する。

4. 競技場への入退場について

- (1) 競技場への入場は、係員の誘導に従い規律ある行動をすること。競技者以外はトラック、フィールドに立ち入ることはできない。
- (2) フィールド競技出場者の退場については、当該競技役員・場内司令の指示に従う。

5. ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは、交付された大きさのまま使用し、必ずユニフォームの胸背に確実に付けること。ただし跳躍競技の競技者は胸・背のいずれかで良い。
- (2) トラック競技出場者は、腰ナンバーカードを招集所で受け取り、パンツ右側後方に付けること。男女4×400mRでは2・3走はパンツの両側につけ、4走はパンツ右側後方に付けること。
- (3) 3000m以上のトラック競技（競歩も含む）は、レーンナンバーカードを使用する。

6. 走路順・競技順について

- (1) 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載どおりとする。
- (2) 準決勝以降のトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は番組編成員で公正に抽選し決定する。トラック競技において、プラス進出者を決める場合、同タイム者についてレーンの余裕範囲内で次のラウンドに進めるが、余裕がない場合は判定写真を拡大し、細部（電気計時2/1000）まで読み取り着差を判定する。判定が不可能な場合は本人または代理人によって抽選する。

7. 競技について

- (1) 事故防止のため、短距離走ではフィニッシュ後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (2) リレーに出場するチームは、予選・準決勝・決勝とも1組目の招集完了時刻の1時間前までにオーダー用紙を競技者係に提出すること。提出時間に遅れたチームは当該種目を棄権したものとみなし処理する。なお、2日目の男女4×100mR準決勝のオーダー用紙提出については、予選が終了した1日目にも受け付ける。（17：00まで）
- (3) 混成競技を除いて、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
- (4) 混成競技は各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートした競技者はすべて失格とする。
- (5) スタート時の不適切行為は警告が与えられる。
- (6) 助力については、競技場内での助力は禁止とするが、コーチングエリアやスタンドからの助言については競技運営や他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認める。また、コーチングエリアにおいて映像機器を競技者に見せることができる。ただし、競技者に手渡ししてはいけない。ミュージックプレーヤー・携帯電話の通信機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- (7) 競技中におきた競技者の結果または行為に関する抗議は、当該競技者の監督により、その種目の結果が正式発表されてから30分以内（当日に次のラウンドが行われる種目では15分以内）に、審判長に対して口頭でなされなければならない。（アナウンスによる結果発表終了時刻を基準とする。）抗議者は担当総務員に申し出ること。
- (8) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。審判長裁定を不服としてさらに上告する場合は、上訴申立書（大会本部に用意）に必要な事項を記入し、預託金10,000円を添えて申し出ること。

8. バーの上げ方について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種 目	練 習	1	2	備 考	
男子走高跳	予選	1 m79	1 m82	1 m85	
	決勝	1 m82	1 m85	1 m88	以降3cm刻みとする
女子走高跳	予選	1 m49	1 m52	1 m55	
	決勝	1 m52	1 m55	1 m58	以降3cm刻みとする
棒 高 跳	決勝	3 m50	3 m60	3 m70	以降10cm刻みとする

- (2) 走高跳・棒高跳で第1位および全国大会出場権決定の場合のバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。
- (3) 混成競技については、混成競技審判長が決定する。

9. 予選通過記録

	走高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男 子	1 m85	6 m50	13m10	12m70	34m50	41m00	52m00
女 子	1 m55	5 m05	—	10m30	31m00	—	35m50

※上記の記録は、天候その他の条件により変更することもある。

10. 競技に使用する器具は、全て主催者が用意したものを使用する。ただし、やりは検定を受けて通ったものを使用できる。また、棒高跳用ポールに限り個人所有のものを使用できる。
11. 混成競技の得点が同じ場合、得点が入った種目数の多い競技者を上位とする。
12. 表彰については結果発表後、全国大会出場資格を得た選手は、エントランスホールに集合すること。
13. ケガや体調不良に関しては、応急処置のみ大会主催者が行う。
14. 全国大会出場権を得た競技者の監督は、全国大会申込を完了すること。申込場所は競技場内施設会議室Bに設ける。